

令和2年度第2回目黒区立図書館利用者懇談会

日時 令和2年12月6日(日) 13時30分～15時30分

会場 目黒区総合庁舎 本館2階 大会議室

出席者 利用者17人、区側(図書館・事務局)12人

内容 第1部 講演

「図書館の動向とこれからのサービス」ほか

慶應義塾大学名誉教授 田村俊作氏

第2部 懇談

第1部 田村俊作氏(慶應義塾大学名誉教授)による講演(13時30分から)

「図書館の動向とこれからのサービス」ほか



令和2年度第2回
**目黒区立図書館
利用者懇談会**

～よりよい図書館運営に役立てるため、議決の場で利用者のみなさんと懇談をします。ご参加をお待ちしています～

日時 令和2年12月6日(日) 13時30分～15時30分
(開場:13時)

会場 目黒区総合庁舎 本館2階 大会議室 (上目黒2-19-15)

内容 第1部 講演
「図書館の動向とこれからのサービス」ほか
慶應義塾大学名誉教授 田村俊作氏
第2部 懇談

定員 40人(先着)

申込み 11月29日(日)までに、八雲中央図書館で
入場券、参加券、フロッパスでお申込みください。

その他・マスクを着用してご参加ください。
・定席時に体温等の検温、非接触型体温計で検温をさせていただきます
・新型コロナウイルス感染症拡大防止等の理由で
中止する場合がございます。お断りください。

＜申込み・問合せ先＞
目黒区立八雲中央図書館庶務係
〒152-0023 目黒区八雲1-14
電話03-3701-2793 ファクス03-3701-2794



講演資料

平成2年12月6日日曜日、目黒区総合庁舎本館2階大会議室において、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、令和2年度第2回目黒区立図書館利用者懇談会が開催されました。

第1部は、平成28年度に目黒区立図書館基本方針検討委員会の委員長を務められた、田村俊作氏(慶應義塾大学名誉教授)を迎え、講演『図書館の動向とこれからのサービス』を、第2部は、参加者の方に3つのグループにわかれていただき、懇談を行いました。

講演は、まず、図書館における資源には何があるのか、から始まり、戦後の図書館におけるサービスの変遷をたどり、映像による国内外の図書館活動の新しい試みの例が紹介されました。

また、コロナ禍での新しい生活様式の図書館像については、模索中のため現時点では提示できない段階にありますが、利用の実績として、図書館ホームページによる予約サービスと様々なお知らせが活用されていたこと、電子書籍への要望は今後増加すると考えられること、おはなし会のWeb配信などには著作権の壁があるなど、問題点も上げられまし

た。

その中で、電子書籍はまだ発展途上の感じもあり、また、システム化に対する日本の社会における法整備や、コンテンツの充実といった今後の利用促進に向けた課題も紹介されました。

第2部 懇談（14時40分から）

3つの班に分かれて、参加者同士による懇談会を開催

1 各班からの主な発言

- (1) 本日の講演会にはなかった視点として、利用者の視点があると思う。この重要性を再確認して欲しい。(同意見2名)
- (2) 本日の講演会で、がんセンターの事例があげられていたが、専門的な分野の書架があるとありがたいと思う。
- (3) 本日の講演会で、「繋がる」という言葉があった。現在のコロナ下の状況で、いかに実現していくかは難しい問題だ。
- (4) 新たな目黒区民センターの基本構想は、図書館にとっても重要な問題だ。それを検討する場を利用者懇談会等でも提供してもらいたい。
- (5) 目黒区民センターのあり方について見直しがすすめられている現在、タイミング良く、色々な図書館サービスの話が聞けて良かった。
- (6) 目黒区民センターの改修工事中に図書館サービスをどのように続けていくのか、対応すべきである。
- (7) 全国の新しい図書館では書架をホテルのロビーの様に並べている所もあり、綺麗で良い。
- (8) 今回の利用者懇談会の第2部懇談会は、新しい機軸で企画されており良かった。
- (9) 各地の図書館の色々なアイデアが紹介され、興味深い講演であった。
- (10) 第1部の講演で、予算に限りがある中、各地の図書館で色々な工夫が紹介されていて興味深かった。職員が一緒に聞いていたのも良かったので、今後の改善に生かして欲しい。
- (11) 図書館の「雰囲気」が重要という指摘に共感が持てた。
- (12) 八雲中央図書館は近隣の団地の人のための図書館というイメージがある。また、高校生のための図書館というイメージがある。高校生は学校の図書館を使えば良いのではないか？
(これに関する他の参加者の発言) 学校の図書館は、放課後には閉まってしまう。また、八雲中央図書館は雰囲気が良い。
- (13) 狭い区の中に8つの図書館があるのが良い。小さくても各地域にあるのが良い。
- (14) 専門的な本がなくて困ったことがある。
(これに関する他の参加者の発言) 全てのジャンルを網羅するのは無理だと思う。

2 講師によるまとめと質疑応答

各グループの懇談であがったご意見・感想、また質問等について、田村氏からコメントをいただきました。

(1) 参加者から：各地の図書館における資料のコーナーのアイデアを知ることができて良かった。また、今日は図書館職員と一緒に参加してくれて良かった。

【田村氏コメント】

ありがとうございます。

皆様に各地の特性を生かした資料のコーナーをご紹介したことを「良かった」と言っただき、安心しました。

職員の方は、今後の改善に生かしてください。工夫するかしないかは、職員次第です。職員にもできることとできないことがあるので、限られた条件の中で、できることをして行く、優先順位をつけて対応して行くのはどうでしょうか。

ご意見の中には、目黒区民センターの見直しに関するものもありました。関心を持っていらっしゃるようですね。

(2) 参加者から：利用者の意見、要望を汲み上げることができないでしょうか。

【田村氏コメント】

色々な形で色々な意見を聞く必要があるでしょう。カウンターでいただいたご意見について、その場でじっくりと受け答えるのは難しい場合もあります。新しい図書館を作る時に、区民の意見を聞くようなところが確かに必要だと思います。

(3) 参加者から：若い人たちのことについてはどうお考えですか。

【田村氏コメント】

小学生には児童サービスがありますが、中高生については中々難しいものがあります。上手に対応しているところでは、スペースに余裕があれば、中高生と一緒にコーナーを作るという工夫をしているところもあります。高校生が図書館で自習するのはどうか、という意見がありますが、実は社会人も自己学習で使っている、という場合もあります。昔は、本を使わず場所だけ使うことを図書館は概して歓迎していませんでしたが、最近では、「自習室」を「受験生応援コーナー」として設定し、受験関係の情報を新聞切り抜きで提供しているという長崎県平戸市の例もあります。大学受験や大学生の資格試験の勉強の場、また、情報の場としています。東京とは事情が違い、地方都市は地元の学生を応援したいという思いがあり、本を使う使わないに関係なく図書館に来てもらい、情報を提供する工夫をしています。

中高生も一緒に考える場として、生徒たちにポスターを描いてもらうなど、接点をいろいろ持つのは良いと思います。

コロナ禍の中での児童サービスとしては「ひとりおはなし会やります」というところがありました。1対1なのですが工夫していると思います。

(4) 参加者からの質問：図書館の資源に情報が含まれているのか先生に確認したい。

【田村氏コメント】

私の話の中で、図書館の資源について取り上げました。「情報」は資源に含まれています。情報に職員の手を加えて相手に伝えられる形にして渡す、手を加えることで初めて情報になります。情報の先には「知識」も入っています。様々な知識の世界への入口として情報コーナーを考えるとよいと思います。

(5) 参加者から：専門分野の紹介があるとよいと思いますが。

【田村氏コメント】

図書館の本にはあらゆるジャンルがあります。職員は本の専門家であっても各ジャンルの専門家ではないので、公共図書館を専門的知識への入口と捉え、様々なジャンルの入口として誰にでもわかりやすい情報を提供する場となればよいと思っています。そこから専門機関へ繋がられれば良いと思います。

15時30分 閉会